

久米
寿号

第117号
H24.10.1
久米地区
寿会連合会
文化部

久米地区寿会連合会の活動状況

○七月一日 「久米寿号第一一六号」発行
○七月十一日～二十日

「夏の交通安全県民運動」に参加
輝きクラブ周南女性部研修会（於
徳山社会福祉センター）に参加

○七月十三日
周南市社協主催の東部地域老人大
学校（於榊ヶ浜公民館）に参加

○七月二十四日
輝きクラブ周南徳山支部理事会
久米地区寿連 単位会長会議

○七月三十日
「久米地区ふるさと夏まつり」
（於久米小学校）に協力参加

○八月四日
輝きクラブ周南徳山支部理事会
「久米寿号第一一七号」編集会議

○九月七日
本日開催予定の「久米地区敬老会」
（久米地区社会福祉協議会主催）
は、台風第十六号のため中止

○九月十日
「久米寿号第一一七号」編集会議
は、台風第十六号のため中止

○九月十七日
「久米寿号第一一七号」編集会議
は、台風第十六号のため中止

○九月二十日
全国老人クラブ「社会奉仕の日」
活動を久米地区各単位寿会で実施

○九月二十七日
「秋の交通安全安全運動」
久米地区寿連 単位会長会議

☆会員の入会（敬称略）

堂山宣江（北寿会）

☆会員のお祝い（敬称略）

九月十七日の「敬老会の日」に因んで、次の
会員の方々がお祝いを受けられました。おめで
とうございます。心よりお祝い申し上げます。

◎米寿 「周南市長から」

舞田 操（北寿会）

藤井壽一（中寿会）

山本美好（上南寿会）

山本ヤス子（上南寿会）

◎金婚 「久米地区社会福祉協議会から」

竹下 茂・光子（北寿会）

森川菊夫・ユカエ（上南寿会）

齊藤恒郎・明美（上南寿会）

☆会員の訃報（敬称略）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

利光治枝（北寿会）

平成二十四年八月五日死去 享年八十二歳

金メダル

上南寿会 山田定子

八月四日、久米夏まつり開催、午前中に子どもみこ
しを地域で声援する。夕方から、ステージイベントの
久米芸人大集合に出演、出演者の最高齢でトリをつと
めさせてもらった。

菊華流剣道真誠館の紹介

菊華流は、明治の初期に始まった弥生流土佐派の流
れを汲む非常に古い剣舞術で、居合流から始まってい
ます。その為、剣を中心とした踊りが主ですが、扇子
や槍、笠なども使い、詩や歌の意義、詩情をよく理解
して、詩中の人となり、心中より感情豊かに表現し演
じるのが特徴です。この様な剣舞は現在非常に数少な
くなっています。貴重な伝統を守ろうと私たちは活動
を続けています。

剣舞の目的

一、伝統ある剣舞を通じて、健康づくりと健全な精
神を陶冶する。

二、剣舞を愛する人たちの集まりを通じて歴史を知
り、また人生をもとに過ごす仲間づくりをする。

三、詩吟、短歌朗詠仲間と交流し活動する。

おわりに、剣舞は、二十数年前から光市文化祭に参
加しておりますが、今年度から久米生涯学習の講座生
としても学んでおります。

オリンピック開催の最中、久米夏まつりに金銀の帯
をつけ金茶の袴で出場しました。最終プログラムの福
引きで特別賞（中島酒店賞）越乃寒梅が当たり、私に
とってはオリンピックの金メダルに値するもので光栄
に存じます。夏まつりで人生の集大成を飾ることがで
き、関係者の方に感謝申し上げます。

「もったいないばあさん家の知恵袋」



過ぎゆく夏に

上南寿会 齊藤恒郎

酷暑もようやく衰えて朝晩の涼気が快い。

「水分をこまめに摂るのよ。炎天下に出歩かないで。
エアコンも使って」と娘から再々の電話。

我が家はこれまで殆どエアコンを使わなかったし、
汗だくで歩きまわってもいた。だが齢八十ともなれば
慎重にもなる。昼の二時間を涼風の中で音楽を楽しむ
ことにした。炎天下の歩きも最高九千五百歩。一万歩
にならないところがセコい。白杖を伝う汗を拭いなが
ら思った。ネクタイを緩め胸元まで流れる汗を拭いて
いる茹で蛸のような男性に比べ、女性の何と軽やかで
涼し気なことか。クールビズにもなれないのなら、せ
めて帽子など被り、日傘などもあればいいと思う。

テレビで「熱中症にご用心、紫外線に気を付けよ」
と呼びかけるのなら、男性にも日傘をと、流行させる
ような提案をしてくれ。シャイな男心に決断させる後
押しをしてくれ。日傘があれば…と陽陰を追いつつ思
った。私も来年は日傘をさそう。未だ生きていたら…
の注釈がつくのが怪しいが。

くめ・ひばり

この暑さエコという事忘れたい
ツクツクと鳴く蝉の声待ちうれし

足裏の砂を削りて行く波にひとつ花びらゆれてた
病む友のその全快を祈りつつ一折一折千羽鶴折る
石田敬枝

川柳・短歌

門松がきりりと峻まる七月に
母よりも私の方を氣遣う子

中尾利博

とめどなく白髪は増えてそれから
ひとりとは声無き暮らし夜もすがら
名月に今宵ひとりの影法師

清花

九月十七日久米地区社会福祉協議会の主催で開催される予定の「久米地区敬老会」は、台風十六号のため中止になりました。久米小学校児童全員がそれぞれ書いた「おじいさん・おばあさんへの手紙」は、敬老会招待者九十九名全員にそれぞれ届けられました。だが、児童連を代表して敬老会の会場で発表する予定だった二名のお祝いの言葉を、ここに皆さんにご披露します。

おじいさん・おばあさんへ

久米小四年一組 藤井和真

本日、このけい老会へこられたおじいさん・おばあさん、お元気ですか。ぼくは、自分のおじいちゃん・おばあちゃんといっしょにくらしています。

おじいちゃんは、ぼくにみじかな自然について役に立つことをたくさん教えてくれます。

ぼくの友達を何人かつれて古ふんを案内してくれたり、ぼくのいとこをつれて川へ水生生物の観察につれていってくれたりもします。

ほかにも、ぼくのために木でバットを作ってくれたり、農家なので、しゅうかくの時にはいもほりやいねかりを体験させてくれます。

ぼくが一番心にのこっているのは、山のおくへふくろの赤ちゃんを見せにつれていってくれたことです。野せいのふくろうを見たのは初めてで、むくむくしてぬいぐるみみたいで、とてもかわいかったです。

おばあちゃんは、花作りが得意できれいな花をたくさん育てています。

ぼくに花の名前や、育て方を教えてくれます。秋にはかきをとりに行ったり、昔の遊びを教えてください。とても感しゃしています。

そして今日は会場のみなさんにもお礼を伝えたい事があります。それはいつも通学路をきれいに草かりして下さる方や、見守りたいのパトロールをして下さる方々のおかげで、ぼくたちは安全に登下校できるといふことです。

また、いろいろな所で声をかけてもらえるのもうれしいです。ありがとうございます。まだまだ暑い日が続きますが、くれぐれもお体には十分気をつけて、これからも元気でいてください。

おじいちゃん・おばあちゃん

ありがとう

久米小四年二組 田所伶佳

今日は、おじいさん・おばあさんにかんしゃの気持ちを表すけいろうの日です。地いきのおじいさん・おばあさん、お元気ですか。

わたしは、おじいちゃんとおばあちゃん、ひいじいちゃんがいいます。おじいちゃんは、わたしたちが家に帰ると笑顔でむかえてくれます。おばあちゃんは具合が悪くなってもおいしいごはんを作ってくれます。ひいじいちゃんは、たまに会った時に名前を思い出して言ってくれて、とってもうれしかったです。ひいじいちゃんは自分で立てません。だから手をさし出します。そうすると小さい声で、

「ありがとう」
と喜んでくれます。わたしはそのことを進んでやって「ありがとう」

と言われるのを楽しみにしています。わたしのおばあちゃんは畑を三つ持っています。とっても大変なのに一つ一つついでいねいにお世話して、りっぱな野菜を育てています。わたしはその野菜を生で食べるのが大好きです。塩のからさと野菜の水分がマッチしてとてもおいしいです。でも、おばあちゃんはよく具合が悪くなります。だから畑仕事を手伝うと、よりおいしく感じることもあるので、なるべく仕事を手伝っています。

自分のおじいちゃん・おばあちゃんもそうですが、地いきのおじいさん・おばあさんにとってもかんしゃしています。そして元気をもらっています。わたしが今願っていることは、おじいさん・おばあさんが長生きしてくれることです。あいさつをしつかりすること。今までのおんをかえせると思っています。今まであいさつで元気をくれたお礼に、今度はおじいさん・おばあさんに返したいです。

保育園の時にこのけいろう会で、わたしはたいこをたたきました。とってもきんちようしました。でも、練習の時におじいさん・おばあさんたちの笑顔をおもいかべるととっても楽しみなりました。本番が成功してとってもうれしかったのを覚えています。地いきのおじいさん・おばあさん、どうぞこれからも元気でいてください。

蚊の卵が羽化に至りにくかったのは、と思われる。

三つ目は、今年六月の朝の平均気温が、過去十四年間の平均気温(二十・八℃)よりも一℃余り低かったこと。これも蚊の羽化に影響したかもしれない。

四つ目は、全体的に年々農薬等化学物質のためか、虫の数が大幅に減ってきている。

蚊の少ない訳は、以上のどれかに限定できるものではなく、各々の相乗効果によるものと思われる。

蚊の少ないことは喜ばしいことですが、年々蚊以外の虫の数も減ってきていて、そのため鳥の数も大幅に減ってきていることは、気掛かりなことですね。

△7年間は

蚊が少ない？

中寿会 野村克行

現在私は、東坂本に住んでいます。三年前までは約四十年間、西久米の東側の「中央」という所に住んでいました。

ところで、今年は今までのところ非常に蚊が少ないように思うのですが、皆様方のところは如何ですか。

今原稿を書いている日には、梅雨最中の七月十日です。以下カッコ内の状態で、畑には殆ど毎日一時間程度は出かけていますが、まだ蚊に咬われたことはありません。(長袖・

手袋は着けているが、防虫ネット・蚊取り線香・防虫薬の塗布等は行わ

す)

十四年前から我が家で簡易的に気象観測(気温・降水量等)をしている結果から、その訳を拙い推測ですがやってみますと、つぎのことが考えられます。

一つ目は、今年二月の朝の平均気温(一・二℃)が過去十四年間の平均気温(三・四℃)よりも二℃余りも低く、最低であったこと。これが蚊の卵に少なからず影響を与えたのでは、と思われる。

二つ目は、今年五月の降水量(八十mm)が、過去十四年間の平均(約三〇〇mm)よりも二〇〇mm余りも少なく、最少であったこと。このため蚊の卵が羽化に至りにくかったのだ